

人生ハンド仏句

第37号

H. 17. 4. 1
(毎月1日発行)

法華経の実体験！

住職 谷川寛俊

長崎県大村市は人口約八七、〇〇〇人、大村藩はかつてキリシタン大名として知られ、やがて法華経信仰者として有名な加藤清正の影響を受け、キリスト教から日蓮宗に改宗した。その大村湾に面した所に八ヶ寺の大きな日蓮宗寺院が建立されて一ヶ寺約一、三〇〇軒の檀家を振り分け、最も多いお寺は三、〇〇〇軒もの檀家があるそうです。

その八ヶ寺のうち二ヶ寺のお寺で春秋彼岸の一週間午前・午後と一日二回のお説教が開催されており、今回春の彼岸に招かれ行って参りました。実は三年程前より来て欲しいと依頼されていたのですが、当方にもお彼岸がある訳ですからそんな一週間もお寺を留守にする訳にはいかず、断り続けていたのですが、とうとう断りきれず、又副住職も百日の荒修行から帰っているものですから、機が

熟したとの思いで全てをまかせ出入り九日間の長期にわたりお寺を留守にしておりました。この間一番心配することとは、もしも葬儀が入ったら帰ってくる訳にいかず一番頭を悩ませましたが、お蔭様でその心配もなく、仏祖三宝、諸天善神様のご守護を得て無事大役を果たし、帰って来る事が出来ましたことに厚く御礼申し上げます。

その二ヶ寺とも皆さんご熱心な檀信徒ばかりで大勢の人達が、一週間毎日私のような者のお話を聞きに来て下さる訳ですからこちらとしても同じ話は出来ず、毎日勉強させられました。

又、三〇〇軒くらいの町内全てが日蓮宗という地域もあり、特に赤ちゃんが生まれると一歳までの間に必ずお寺へ連れて来てご先祖様に報告し、発育円満のご祈禱を受けてお帰りになるという習慣があるものですから、皆小さな子供の頃から必然的にお寺との縁が結ばれるのでしよう。本当に良い習慣を我々先祖の人達が残して行かれたものと感心致しました。

丁度お彼岸の中(二十日)の時でした。皆さんも記憶に新しいと思いますが、「福岡西方沖地震」が発生した時、お

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjoyujitoyama108/>

説教の最中で本堂がグラグラと大きく揺れ、皆さん「アッ」とか「キヤー」とも聞える大きな声で一時堂内は騒然となりました。長崎県では、震度四あったそうですが、皆さん地震でこんなに大きく揺れた経験は、初めてだったそうですから無理はありません。

丁度ゆれた時、「法華経が何故尊い教えなのか」というような話をしていた時だったものですからさかさず、法華経序品第一というお経典には「法華経のお話をした時、大地が歓喜して、六種に震動する」と予言されているのですが、その事を正に今証明したのでしよう！といって皆さんに笑いと感動を与える事が出来、私自身もグツトタイムングと申しますか不思議な体験をさせていただきました。

それくらいに法華経という経典はお釈迦様がお説きに成られた教えの中で、諸経中の王様(唯一絶対)、ともいわれるゆえんがそこにある訳であります。その有難い法華経とお題目を信仰する私達は仏様の使い人としてこの世に選ばれて生まれて来た地涌(ぢゆ)の菩薩

(地から涌き出た仏様)であるということを見出し、もっと信仰を深めたものです。そして子孫にその事をしっかりと伝えていかなければならない役目があるのです。

与える根徳
善功の
真の
真の
がが
求めず
これが
これが
これこれ

